

平成28年6月9日開会

平成28年第2回東松島市議会定例会

議員一般質問通告書

東松島市議会

《 議員一般質問 目次 》

平成28年第2回定例会

順位	氏名	件名	頁
第1位	熊谷 昌崇	1 災害時の地域における、電力協力について	3
第2位	五ノ井 惣一郎	1 来春の市長選に立候補せずに伺う	4
		2 本市国土利用計画に問う	5
第3位	古川 泰広	1 DMOによる観光事業について	6
		2 野蒜北部丘陵団地の課題	7
第4位	菅原 節郎	1 空き区画・空き住宅対策について	8
		2 教育の諸問題について	9
		3 市鳥を制定してはいかがか	10
第5位	大橋 博之	1 健康寿命を延ばす取り組みは	11
第6位	阿部 としゑ	1 防災力向上を指導せよ	12
		2 本市各駅の駐輪場を整備せよ	13
第7位	小野 幸男	1 産業部所管の問題を問う	14
第8位	熱海 重徳	1 特殊な仕様となる工事における工事設計業務について	15
		2 J R仙石線の停車駅の改正について	16

順位	氏名	件名	頁
第9位	五野井 敏夫	1 東松島市における地方創生と現状はいかに	17
		2 柳ノ目地区の土地利用計画について	18
第10位	小野 恵章	1 阿部市政の継続について	19
第11位	木村 清一	1 地域包括ケア人材確保支援の拡充を求める	20
		2 観光振興策の展望を問う	21
第12位	上田 勉	1 防災備蓄品の広域化を目指せ	22
		2 災害公営住宅の不具合個所の掌握と対策を急げ	23
第13位	多田 龍吉	1 健康の確保と食育推進の重要性について	24
第14位	佐藤 筐子	1 障害者が自活できる施策を示せ	25
		2 若者定住のための施策を伺う	26
第15位	長谷川 博	1 被災者の生活再建・暮らし応援について	27, 28
第16位	佐藤 富夫	1 阿部市政11年を振り返る	29
		2 教科書副読本『わたしたちの東松島市』	30

【質問者数16人・質問件数27件】

氏 名	件 名	要 旨
<p>第1位</p> <p>熊谷昌崇</p>	<p>1. 災害時の地域における、電力協力について</p>	<p>昨今、日本全国に産業用太陽光発電設備が建設されている。</p> <p>東松島市においても、至る所に法人や個人名義で建設されている。太陽光発電設備は電力会社の売電メーターを動かす電気を電力会社から購入し、計測して売電しているが、停電時はメーターが動かないため、売電できない。</p> <p>しかし、発電設備自体は太陽が出ている限り発電している。そこで、もし協力が得られるのならば、災害協定ののようなものを結ぶなりして、災害時の電源として協力してもらってはどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
第2位 五 ノ 井 惣 一 郎	1. 来春の市長選に立候補せずに伺う	<p>3月30日の地元紙に来年4月の任期満了に伴う市長選に立候補せず引退する意向との記事が載り、5月12日に記者会見で今限りで引退すると正式に表明された。引退理由に触れ、「人口減少、少子高齢化に対応する新しい社会づくりには新しい人が担当するのが望ましい」と話されている。想定に無かった東日本大震災で本市は甚大な財産と生命を失い、被災された人々は路頭に立たされたが、市長は早い決断と実行力で県内でも復旧、復興はトップで進み、各界から高い評価を得ている。本年から第2次総合計画、来年4月から区長制度を廃止し自治会制度の新しいまちづくりを進めるにあたり、1年前の引退声明は、早いのではないかとの市民の声が、多いが、改めて引退の意思表示について、その真意について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
五ノ井惣一郎	2. 本市国土利用計画に問う	<p>第2次東松島市国土利用計画が示された。本市の土地利用は、昭和45年に都市計画に基づく「線引き」による市街化区域と市街化調整の「区域分」に指定し、市土全域を対象に行われ、計画的に土地利用を進めてきた。震災後、「復旧、復興」に鋭意事業を進め、移転跡地を含め、全体的にまだ時間を要する「土地利用計画」見直し時期は、市全体としての復興事業の実施に基づく土地利用を広域石巻圏として、状況把握して整理する必要があると言われてきた。本市の第2次国土利用計画は、平成37年までを見据えた計画であるが、少子高齢化の時代が進む中で、世帯数、人口減の中で厳しい財政難が予想される。その対策として昭和45年からはや50年となる土地利用の「線引き」を見直さなければ、本市の国土利用計画は進まない。総合計画基本構想に「市土の有効利用及び土地利用転換の適正化」とあるが、正に、第2次国土計画の原点である。改めて「線引き」と国土利用計画について考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第3位</p> <p>古川泰広</p>	<p>1. DMOによる観光事業について</p>	<p>東松島市第2次総合計画の基本計画における分野7働「絆を育む観光が盛んなまち」の観光方針には、さまざまな都市間の観光交流活動の推進と多様な主体の連携のもとでの観光産業の振興を掲げているが、去る5月25日開催の議員全員説明会における地方創生関連のDMOによる観光事業についての説明では、将来的には松島町、女川町、気仙沼市、南三陸町との連携を目指しているものの、東松島市と石巻市2市だけの協働による「石巻圏DMO」となっており、必ずしも総合計画の観光方針に添ったものとは言い難いものになっていると思料される。</p> <p>総合計画の観光方針に基づくスケールの大きな観光事業を推進すべきと思料されることから以下伺う。</p> <p>(1) 東松島市と石巻市の2市だけ連携のDMOによる観光事業とした理由と目指すものは何か。</p> <p>(2) 宮城県には松島湾ダーランド構想があり当該構想の関係市町も含めた広域的な観光を推進すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(3) 総合計画の「絆交流」を生かした双方向型の観光も取り入れるべきと思料されるが伺う。</p> <p>(4) 観光に関連する多様な主体の連携による観光にも取り組むべきと思料されるが伺う。</p> <p>(5) DMOによる観光事業については、商工観光課とは事業調整など、連携が取られているものと思料されるがその内容について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第3位</p> <p>古 川 泰 広</p>	<p>2. 野蒜北部丘陵団地の課題</p>	<p>(1) 去る5月28日、野蒜北部丘陵団地の一戸建て用地の引き渡し式が行われ、87区画が引き渡された。移転者の多くの方々からは、感謝と喜びの声が聞かれる一方、盛土だけの造成区画また1区画内に盛土・切土による造成された区画については地盤沈下等を懸念する声もあることから以下について伺う。</p> <p>① 盛土高が2m～13m、3m～19m、2m～20m等の区画の個所もあるが、十分な転圧が行われたと理解してよいか、またその裏付けなるものは施工者から提出されているか。</p> <p>② 区画造成完成後にサウンディング試験が行われているとのことであるがその結果について伺う。</p> <p>③ サウンディング試験結果については関係者個々に渡しているとのことであるが、十分説明が尽くされているか。</p> <p>④ サウンディング試験結果だけでなく、切土・盛土ラインの入っている平面図も渡すべきと思料されるが伺う。</p> <p>(2) 野蒜北部丘陵団地の切土法面の芝が、ほぼ全面的に枯れ、岩肌が露出している個所も出てきており、対策を講ずべきと思料されるが伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第4位 菅 原 節 郎</p>	<p>1. 空き区画・ 空き住宅対策に ついて</p>	<p>去る5月28日野蒜市民センターにおいて野蒜北部丘陵団地（野蒜ヶ丘）の第一期集団移転宅地引き渡し式が行われた。</p> <p>震災から5年2カ月余りを費してこぎつけた事業に感慨深いものがあった。改めて移転対象者の方々の辛抱と実現に尽力した関係者の方々に敬意を表したい。</p> <p>この後計画戸数448戸（戸建278戸、災害公営住宅170戸）の完成に向け、努力が傾注されることになるが、危惧されるのは、空き宅地・空き住宅が多くなるのではないかということである。当局においても色々と対策を講じているとは思いますが、今後の見通しと対策について伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
菅 原 節 郎	2. 教育の諸問題について	<p>(1) 市内の各小学校では例年のように運動会が催され、子どもたちの歓声であふれた。私が訪れた2つの小学校では種目の中には無かったが、全国的に事故の報告が相次いだ組体操に対する対策をどのように指導しているのか。</p> <p>(2) 教科書の採択にからんで教科書発行元から各種のもてなしを受けたとして、教師等が非難されたが、本市においてはそのような事例はなかったか。また、教科書の採択はどのように行われているか。</p> <p>(3) 震災の風化が懸念されているが、本市における防災教育の現状はどうなっているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
菅 原 節 郎	3. 市鳥を制定 してはいかがか	<p>本市においては合併時に市の花、市花に「さくら」が、市の木、市木に「松」が定められ市民の多くに愛されている。</p> <p>愛鳥家の皆さんによると本市は類まれなる野鳥の宝庫であるそうだ。この際市の鳥、市鳥を定め、本市のさらなるイメージアップを図ったり、子どもたちの情操教育等にも利用してはいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第5位</p> <p>大橋博之</p>	<p>1. 健康寿命を延ばす取り組みは</p>	<p>健康寿命とは、健康上の問題がなく、日常生活を普通に送られる状態を指す。2013年の我が国の健康寿命は、男性が71.19歳、女性が74.21歳である。</p> <p>平均寿命と健康寿命の間には、男性で約9年、女性で約13年の差がある。「ぴんぴんころり」という標語があるように誰もが最後まで健康でいきいきとした生活を送りたいと思っている。</p> <p>この健康寿命を延ばすためには、一般的に適度な運動、三度の規則正しい食事、心の健康、五感を使った感動が必要だと言われている。少しでも健康寿命を延ばすことが医療費の削減だけではなく、安心して暮らせる家庭環境・地域づくりに大きく貢献すると考える。</p> <p>健康寿命を延伸するための本市の具体策を以下の点について伺う。</p> <p>(1) 適度な運動（スポーツ）の普及のための取り組み。</p> <p>(2) 心の健康・感動を見つけられる生涯学習のプログラムについて。</p> <p>(3) 生涯現役で働けるような高齢者向けの雇用対策はどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第6位</p> <p>阿部としる</p>	<p>1. 防災力向上を指導せよ</p>	<p>東日本大震災から5年が過ぎ先ごろ熊本県益城町で震度7の地震があった。九州中部を中心に西日本の広い範囲で強い揺れを観測した。その後も強い余震とみられる地震が続いた。連日の報道を新聞、テレビで見て、建物の倒壊や避難生活の様子を見て東日本大震災と重なって心が痛んだ市民は少なくないと思う。</p> <p>こうした中、本市においては災害に対してかなり整備されてきている。防災力を向上させるため、自助と共助の部分に力を貸して欲しいと考え質問する。</p> <p>(1) 各地域にある自主防災組織をどのように考えているか。中には、防災研修会を開催したりと活発な所もあるが、シンポジウムの紹介や災害関連のビデオを貸し出したり等、年に何回か集まる機会をつくってやるのも一つの方法と考えるが。</p> <p>(2) 市民防災の日には家の中の安全対策の確認が広報に載って、改めて見直しをした市民もいたと思う。非常用持出袋の点検や防災グッズの見直しに関しても指導してほしい。</p> <p>(3) 災害に地域で活躍できる若い力の学生が必要と思うが、今後の防災教育をどのようにすべきと考えているか。</p> <p>(4) 共助の部分には、どういった指導が必要と考えるか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長・教育長】</p>

氏名	件名	要旨
阿部としる	2. 本市各駅の駐輪場を整備せよ	<p>仙石線が開通し、通勤通学が便利になり市民皆喜んでるところだ。前にもこのような一般質問が出されたがなかなか実現されないことから学生や市民の方々からの要望が強く、質問する。</p> <p>学生の間では、J R 石巻あゆみ野駅の駐輪場の整備の状況を見て話題になっているようである。この駅がどういった経緯(仮称柳ノ目駅設置促進期成同盟会石巻西高関係団体部会の寄付金をあてている)で整備されたかも駐車場に記されているので十分に承知しているのだが、雨や雪の降る日には腰掛台等がぬれたり、凍ったりして大変困ることである。各駅の利用者数に応じた駐輪場の整備をすべきと考えるがどうか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第7位</p> <p>小 野 幸 男</p>	<p>1. 産業部所管の問題を問う</p>	<p>復興事業が進捗している中、地域に密着する事業も多く以前に質問した検証も含め今後の取り組みについて伺う。</p> <p>(1) 野蒜海岸の防潮堤完成後の海水浴場の開催についての計画または駐車場の位置や県道の横断等の交通規制や安全対策について伺う。</p> <p>(2) 建築が終了された漁具倉庫の使用はいつからできるのか、また、検証の中で効果促進事業の予算で対応が待たれる、各漁港の防犯対策も兼ねた監視カメラの設置と縦横無尽に走り回るジェットスキーの安全対策と各海岸施設等への注意書きを含めた看板設置の要望について伺う。</p> <p>(3) 奥松島松島公園線の県道の新設に伴い、今後の水産用地または農業用地との兼ね合いもある嵯峨ビーチホテルの跡地の買い上げも含めた方向性について。</p> <p>(4) 復興多目的施設の完成に関連して、いろいろと提案されている観光戦略と公社の関わり合いについて伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第8位</p> <p>熱</p> <p>海</p> <p>重</p> <p>徳</p>	<p>1. 特殊な仕様となる工事における工事設計業務について</p>	<p>市内各所で復興関連工事が進行・計画されているが、早期完了に向け、発注者である市と設計業者・工事業者、三者の協調が必要と思われる。そこで特殊な仕様となる工事における設計業者と工事業者の連携、また市の双方への管理体制について問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
熱 海 重 徳	2. J R 仙石線 の停車駅の改正 について	<p data-bbox="576 271 1426 517">石巻あゆみ野駅の開業に伴い、新たに時刻表が改正された。しかし、平成27年5月の全面開通から要望が多かった停車駅の改正や増便については認められない形となった。集団移転が進み、特にあおい地区は規模の大きさから東矢本駅の利用者も増え、改正が強く望まれているが、市長の考えは。</p> <p data-bbox="1043 658 1406 696">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第9位</p> <p>五</p> <p>野</p> <p>井</p> <p>敏</p> <p>夫</p>	<p>1. 東松島市における地方創生と現状はいかに</p>	<p>地方創生とは第2次安倍政権で掲げられた東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ日本全体の活力を上げることを目的とした一連の政策である。</p> <p>地方自治体自らによる「地方版総合戦略」の策定と実施に対して、国が情報、人材、財政の各種支援を地方の自主性、将来性、地域性、直接性、そして結果重視の原則に即して行い、地方での安定した雇用の創出、地方への人口の流入、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえ、時代に合った地域をつくり、地域間の連携を推進することで地域の活性化とその好循環の維持の実現を目指すとしている。</p> <p>以上を踏まえた上で、本市における現状と将来像はいかに。以下の点について伺う。</p> <p>(1) 人口増加策と人口減少、対削減策はいかに。</p> <p>(2) 雇用の創出と起業、企業の誘致への優遇策について。</p> <p>(3) 他市から転入し定住化を希望する人々に対する恩典、特典を設けては。</p> <p>(4) 子育てと教育について他市と比較し、本市独自の優位性をもった政策をどう打ち出すか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
五野井敏夫	2. 柳ノ目地区の土地利用計画について	<p>柳ノ目地区の三陸自動車道南側側道から東赤井104号線東側の石巻市市境までの現在農用地を新たな土地利用計画が民間において水面下で計画されていると聞く。市では東松島市第2次基本計画においては、平成28年から平成32年までは、全市の土地利用計画は見直さないとしている。</p> <p>議会としても、この基本計画を承認したことは周知の事実である。</p> <p>しかし、この地域の接続する石巻市蛇田地域の変貌を見たり、将来を推察した時、いつまでも現状のままではいいのか甚だ疑問に思い、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 土地利用計画をなぜ平成28年から平成32年まで見直しせず凍結するのか。</p> <p>(2) 市道東赤井104号線、小松赤井線拡幅整備を平成31年3月までに実施するとしているが、現在の進捗状況はいかに。</p> <p>(3) 当該の一部に計画されているパークアンドライドはどうするのか。</p> <p>(4) 近い将来、石巻圏域の中心地になる場所の隣接地を現状のままの土地利用でいいのか。雇用の創出創生する場所、企業進出できる場所に積極的に土地利用計画を見直しすべきと思うがいかに。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第10位</p> <p>小 野 惠 章</p>	<p>1. 阿部市政の 継続について</p>	<p>市長は、次年度改選を前に早々と勇退を表明された。当然、次期市長に変われば、施策の方向性や、施策の重要度の変化もありえる。本年3月に、東松島市第2次総合計画が策定された。いわば、今後10年東松島市に縛りをかけたようなものだ。</p> <p>阿部市政3期の中で、大きな施策の柱としてきたのが、市民協働のまちづくりと安心安全なまちづくりであったと理解しているが、いずれも道半ばではないか。</p> <p>(1) 市民協働のまちづくりの今後について。 (平成29年度、自治会移行と行政区長廃止後の市民協働の最終形とは。また、市長の考える本来の市民協働のあるべき姿とは。)</p> <p>(2) 安心安全なまちづくりについて。</p> <p>① 地区自主防災組織の果たすべき役割と防災における各自治会と各々自治協議会との連携について。</p> <p>② 原子力発電に対する市長のスタンスと考えについて。</p> <p>③ 基地との協力・協調について。</p> <p>(3) 部長マニフェストの継続について。</p> <p>以上、市長自身の考えを問う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
第11位 木 村 清 一	1. 地域包括ケア人材確保支援の拡充を求める	<p> 地域包括ケアシステムの名実伴う構築は、間もなく到来する2025年問題を克服する取り組みとして、緊急かつ真剣な行政課題となっている。2025年は団塊の世代が75歳以上となり、高齢化率がピークで、全国ベースでは2,307万人と推計されている。 </p> <p> 「医療、介護、介護予防、生活支援、住まい」の五つのサービスを一体的に受けられる体制づくりは、本市でも例外ないものとして求められている。それを支えるのは地域での多くの「人」であるが、とりわけ専門性を有する有資格者（看護師、保健師、社会福祉士、介護福祉士、理学療法士、保健福祉士等）の確保無くして成立しないシステムでもある。他市町村でも同様の環境にあることを考えれば、本市のより手厚い行政支援が必要にならざるを得ないと考えられる。一方で人口減少対策の緊急性も必要とされており、相乗効果のある積極的な行政支援策を講じるべきだがその対応方針を示されたい。 </p> <p style="text-align: right;"> 【答弁を求める者 市長】 </p>

氏 名	件 名	要 旨
木 村 清 一	2. 観光振興策 の展望を問う	<p>本市観光ビジョンが平成27年3月に策定され、1年が経過した。この間、仙石線の全線再開、三陸自動車道の4車線化、観光遊覧船の新造船を含めた三艘体制運行の実施、野蒜観光交流・物産センター及び宮戸地区復興再生多目的施設の着工等インフラ整備は着実に前進している。一方、観光振興の展開上「弱み」とされるソフトを中心とした取り組みは、地道で継続性が求められるものの遅々としている現状にある。政府は震災5年の今年を「東北観光復興元年」と位置付け、観光庁では東北の魅力を世界にPR発信したと新聞で報道された。これらの状況をどのように受け止めているか。また、以下の点について今後の展望を伺う。</p> <p>(1) 推進体制としての民間活用及び関係団体との連携について。</p> <p>(2) 観光PR等ソフト面の行動計画について。</p> <p>(3) 文化財資源の観光活用について。</p> <p>(4) 滞在型観光の受け皿づくりについて。</p> <p>(5) 遊覧船料金のフレキシブル化について。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
<p>第12位</p> <p>上</p> <p>田</p> <p>勉</p>	<p>1. 防災備蓄品の広域化を目指せ</p>	<p>3. 1 1 (東日本大震災) から5年2カ月、復興事業も順調に推移している。</p> <p>各移転地への整備が進み、被災した皆さんはそれぞれの思いを秘めて、新しいふるさとづくり、新しい住民自治のコミュニティづくりに邁進し、あおい地区では整備協議会を中心に日本一のまちをつくるべく各種の取り組みを継続している。</p> <p>わが市が、国の内外からの支援を受けながら、5年をかけて創造性ある第一歩を踏み出している。</p> <p>このような中、熊本地震が発生し、わが市がお世話になっている熊本県への支援も局部的にはあるがお礼の意味や我々が経験した復旧・復興事業のノウハウを役立ててほしいと活動中である。</p> <p>支援物資の支援も逐次行っていると聞くが次の点について市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 今後の備蓄計画について。</p> <p>(2) 市内に分散している各自治会の備蓄状況とその利用。</p> <p>(3) 使用した備蓄品の補充計画について。</p> <p>(4) 備蓄品の広域化について。</p> <p>① 県および他市町村との連携。</p> <p>② 他県および友好都市との連携。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
上 田 勉	2. 災害公営住宅の不具合個所の掌握と対策を急げ	<p>5月28日に、待ち望んだ野蒜ヶ丘の土地引き渡しが行われ、同月30日には、あおい地区の第Ⅲ期・Ⅳ期工事の終了と鍵引き渡し、同月31日、入居が開始され、今年7月には、あおい地区の公営住宅・戸建てを含み移転の環境としては市街地としての完成を見る。</p> <p>実に580戸、約1,800人の移転が完了することになる。</p> <p>平成26年11月の入居開始から約2年半を要したが入居者は新しい故郷の生活環境に未来への希望を想像している。</p> <p>しかしながら、一番最初に完成を見た小松南地区の災害公営住宅については住んでみて初めて見える、問題点や不具合個所が散見され担当課では逐次是正措置を施している。</p> <p>あおい地区でも、先行第Ⅰ期47戸においても少なからず問題点があり、URや担当課においては、その後のⅡ期工事からⅣ期工事の進捗の中で対策や見直しを続けてきた。</p> <p>担当課等の^{しんし}真摯な事業への取り組みに敬意を表すところである。</p> <p>しかしながらここにきて、最終的に施設が完成すると様々な問題が発生する。</p> <p>住民自治を完成させるためにも、少なくとも以下に掲げる災害公営住宅のハードの面の充実に向けての予算措置を進めるべきと考えるが市長の考えを伺う。</p> <p>(1) 屋外水道。</p> <p>(2) スロープの安全措置。</p> <p>(3) 道路との安全対策。</p> <p>(4) 生活環境整備是正に関する助言等。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第13位</p> <p>多田龍吉</p>	<p>1. 健康の確保と食育推進の重要性について</p>	<p>このほど、第2期東松島市食育推進計画が策定された。市長は、「『食』は、私たちが健康な生活を送るための基本であり、生きる力の源です。」と計画書の冒頭で述べている。全国的に食育は着実に推進されてきているものの、生活習慣病の増加など食をめぐる様々な課題と、さらには少子高齢化の急速な進行に伴い、健康寿命の延伸は国の重要な課題であり、食育の観点からの積極的な取り組みが必要としている。このための施策を総合的・計画的に推進していくとしている。</p> <p>第3期宮城県食育推進プランでは、健全な食生活に必要な知識の習得と実践能力の育成など4つの基本的な方向を示している。病に侵されて初めて健康のありがたさが実感されるが、健康づくりの重要性をすべての市民に感じていただくことが肝要である。よって以下の点について伺いたい。</p> <p>(1) 食育に関する課題として、家庭での食育の実践力の低下も継続課題として列記されているが問題の本質について。</p> <p>(2) 大人の生活習慣病発症と重症化も継続課題であるが、具体的事例について。</p> <p>(3) 行動計画がきめ細かに記載されているが、特に乳幼児期、学童・思春期、青年・壮年期、高齢期とそれぞれのライフステージに応じた食育の取り組みを実践行動することが肝要だ。平成32年までの5年間に期間としているが、まちぐるみの推進体制について。</p> <p>(4) 健康寿命の延伸は正に社会の要請である。様々な取り組みで成果が表れるものであるが、食育推進にかける思いについて。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第14位</p> <p>佐藤 筐子</p>	<p>1. 障害者が自活できる施策を示せ</p>	<p>障害者が若い時は親や周りの保護があり、何とか生活できる。しかし、親を含む保護者の高齢化などで子供はもちろんのこと保護者たちも^{じくじ}忸怩たる思いでいる。</p> <p>県内には障害者就労継続支援事業A型・B型で障害者の働く場を提供している会社もあり、そのコンセプトに「自立して利益を生む」これはどんな学歴であっても、どんな環境で育ったとしても、障害者であっても、お客様に喜んでいただくという共通認識を持ち将来的には補助金に依存しないで自立すること。「共に成長し学び続ける」とは旧態依然とした場所にはリピーターは来ない。仕事をしながら成長し、学び続けることが今の時代であるという。</p> <p>先日、前述のA型・B型で食材をそろえ食事を提供している店を訪ねた。予約でなければ入店はできない。また予約時間から90分で食事をし店を出ることになっている野菜が中心のバイキング方式である。</p> <p>東松島は食材がそろっている。被災元地を企業に提供し、農業者と漁業者の協力のもと健常者と障害者が共に働き、食事を提供する場所ができるはずである。</p> <p>「生産者」の横の連携をサポートしプロデュースする知恵と力が市にはあると思われるが市長の考えを伺う。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
佐藤 筐子	2. 若者定住のための施策を伺う	<p>震災の影響はもちろんあるが、人口減は自治体の共通の悩みである。今、地域の高齢化率が上がり会合も役職のある高齢者が多くなっている。このままではと市長も考えているはずであるが、若者定住のために必要なこととは何か。</p> <p>30日のニュースで「保育所の待機児童が多く、働きながらの第二子は望めない」と20～40代の6割が考えているとのこと。しかし、超少子化時代の流れを知っていて新しい保育所を造れるだろうか。保育士は充足できるだろうか。</p> <p>また、婚活のイベントは今やどこの自治体も手を変え品を変え盛んに行われている。東松島市でも100組のカップルが生まれたとか聞くが実際に結婚まで行きついたのは、ちょっと前の数字だが一組だったらしい。では若い世代が望むのは何だろうか。民間より家賃が抑えられている公営住宅や、子供たちの教育費や医療費の補助、さらには正規雇用で働ける企業の存在などを挙げるのではないだろうか。</p> <p>例えば、結婚と同時に他市町から転入してきた家庭に「結婚祝い」を2～3万円。妊婦検診のクーポンはあるので母子手帳の発行時に赤ちゃんが生まれて必要な「沐浴ガーゼ・おくるみ・スタイのセット」この3点セットが好評で実施している自治体も増えてきている。さらに、検査費用が高額なのか知られていないのか「新生児聴覚検査」があるが、担当課で聞いたところ直近では8千円支払った方がいたらしい。中学校までは義務教育だが高校入学の時、制服やその他学校指定のものをそろえるのに結構な金額になる。少額でも「入学祝い金」などあれば親御さんはうれしいだろう。新しい子育て支援センターができるので、ママ友を作れるチャンスを案内することで育児ノイローゼから解放されることもある。</p> <p>本市は日本創成会議が発表した消滅可能性896自治体には入っていないが、つまり女性が生きやすい自治体になることが急務であると思える。市長の考えはいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏名	件名	要旨
<p>第15位</p> <p>長谷川博</p>	<p>1. 被災者の生活再建・暮らし応援について</p>	<p>東日本大震災で多くの市民が被災し、応急仮設住宅での暮らしを余儀なくされた。震災から5年が経過し、集団移転団地や災害公営住宅の整備が6割程度に到達し、それぞれの場所で新たな生活をスタートさせている。このほど独自の「市民アンケート」を実施したところ、多数の回答が寄せられた。</p> <p>集計途中で結果の公表にはまだ至らないが、経済情勢の悪化による収入減や年金の減額に加えて住宅ローン、家賃、税金、育児費などの支出が増え、震災後、暮らしは『苦しくなった』とする回答が目立つ。以下、アンケートの回答をもとに数件伺う。</p> <p>(1) 子育てに関して、母親が「働きたいと思っても、定員オーバーを理由に子どもを預けられない」とする訴えがある。保育所の入所や放課後児童学級（学童保育）の状況はどうか、受け入れ体制の整備については。</p> <p>(2) 子ども医療費について、18歳まで拡大して欲しいとの要望があるが、今後の取り組みは。</p> <p>(3) 障害者福祉タクシー券助成について、自家用車で通院するためにガソリン券の助成が望ましいとの回答もあり、検討すべきと考えるが。</p> <p>(4) 災害公営・柳の目東住宅に関して</p> <p>① 団地から石巻あゆみ野駅に行く通路の整備について、どのように進めるか。</p> <p>② 団地内公園への遊具・砂場などの設置要望あり。</p> <p>③ 玄関ドアの防風対策を行うべき。（強風時ドアが開かないとする訴えあり、住戸の向きによっては必要性ありと史料）</p> <p>(5) あおい地区の課題</p> <p>① 地区内への郵便ポスト（差出箱）の設置について設置要望に対して、住民説明の場で「設置できない」との説明だったとする回答が寄せられた。矢本郵便局で確認したところ「設置可能」との前向き回答を得た。早速、具体化すべきと考えるが。</p>

② 東矢本駅も快速電車が停車するよう改善を求めるべき。利便性の向上により震災以前との比較で利用者は確実に増えることは明らかと考える。

(6) 介護保険利用における自治体間の分担について
市内の障害者施設に入所していた方が高齢化に伴い介護が必要となり、他市の介護施設に入所する場合、いずれの自治体が介護保険の給付を行うかの分担が決まらずに障害者施設にとどまる事態が生じているとしている。障害者施設から介護施設への移動が円滑に行えないため、新たに入所を希望する障害者が待機状態となり適切なサービスが受けられず難儀していると訴える。どのような対応になっているか。

(7) 高齢者の見守り等について
被災した市民が仮設住宅から転出し、自立が進んだことで見守り等の支援事業が減少する傾向にある。一定程度、理解はできるが一方で高齢化は間違いないと進んでおり、そうした市民を見守り、支援することは欠かせないと考えるがどうか。今後の取り組みを伺う。

また、こうした方々の「足の確保」についての所見も伺う。

【答弁を求める者 市長】

氏名	件名	要旨
<p>第16位</p> <p>佐藤富夫</p>	<p>1. 阿部市政 11年を振り返る</p>	<p>阿部市長とは矢本町議以来、約25年の付き合いである。良きに付け悪しきに付け私は市長の姿を見続けてきたが、常に硬軟取り混ぜ議論をしてきた私にとって、今回の勇退表明は一抹の寂しさを感じるところである。特に、一時的ではあるが、市長と二人三脚でやってきた防衛省との折衝あるいは東日本大震災時におけるさまざまな対応には非常に感慨深く、いまだに思い出されることも多々ある。</p> <p>(1) これらについては市長の評価として、残るものとは思いますが、これはほんの一部として、ほかの部分についてもまず、その所感について。</p> <p>(2) ブルーインパルスは久々にそろい踏みした。政策的にどのように活用するか。</p> <p>(3) 議会は市制執行来、定数削減をはじめ、様々な改革に取り組んできた。と同時に市も行財政改革に取り組んできたことは認める一方、震災によるスピードダウンも否めないことである。市長の総括と今後どうあるべきか所見を求める。</p> <p>(4) 市長は勇退の理由の一つとして「人口減少、少子高齢化に対応する新しい人が望ましい」としているが、これは今はじまったことではない。自身の総括として、不十分であったと言うことか。その所見について。</p> <p>(5) 市長が早々に勇退表明したことにより、12年ぶりに選挙になることは確実視されている。市長は若い人にバトンタッチをする。としているが、年齢から推定すると約60歳位までとなるが、現状では一般人からの立候補は難しいと思われる。市長が2期無競争であったのは、任せておけば良いという反面、若い人が出にくい環境にあったとも思える。市長は具体的な人材には言及してはいないが、腹づもりがあるのではないかととも思えるがいかがか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 市長】</p>

氏 名	件 名	要 旨
佐藤富夫	2. 教科書副読本『わたしたちの東松島市』	<p>(1) 教育委員会発行の教科書副読本『わたしたちの東松島市』をいただいた。実に良くまとめられており、子供たちはもちろん、大人も興味を持って読むことができるものと受け止められた。</p> <p>しかし、中身には、自衛隊松島基地、行政と議会の仕組みについては、ほんの少ししか触れられていない。</p> <p>これらは、このまちにとって大きなウェイトを占めるものである。理由は何か。何かに遠慮をしたか、 事実を矮小化するのは良くない。教育長の所見を。</p> <p>(2) 教科書副読本としてだけではもったいない。ほかに活用は考えているか。</p> <p style="text-align: right;">【答弁を求める者 教育長】</p>